

千秀だより

横浜市立千秀小学校

1月号

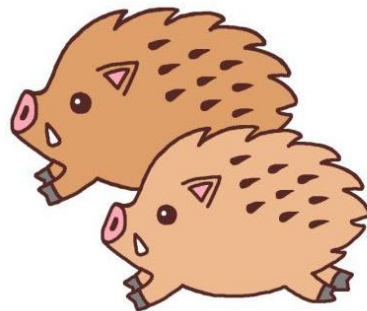
平成31年(2019)1月7日



新たな時代に新たな目標をもって

校長 市川 幸男

新しい年2019年を迎えました。保護者の皆様には、ご家族ともに健やかに新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。昨年は、さまざまな教育活動にご支援ご協力を賜りまして誠にありがとうございました。おかげさまで千秀学習フェスティバル等の行事をはじめ、日常の教育活動も順調に実践でき、子ども達も健やかに成長することができました。新年を迎え、教職員一同、心を新たに子どもたちのために指導に当たってまいります。保護者、地域の皆様におかれましては、年度末を控え何かと気忙しい時期となりますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



さて、今年1年、皆様、そしてお子様はどんな夢や目標を持たれたでしょうか。学校生活を送っていると、1年の中にいくつかの目標を持つ機会があります。まず4月に「今年度はこうしよう」と年度の目標を立てます。次は後期の開始の10月に、「前期を振り返り、後期はこうしよう。」と思います。そして年の始まりでもある1月に「今年はどうしよう」という目標をもつという年間、三度にわたる目標設定の機会といえましょう。何年度と年のくくりの違いによる違和感がありますが、事あるたびに気持ちを新たに、目標をもつことはよいことだと私は思います。授業中がんばって発表すること、学習した漢字の読み書きや計算を正確にできるようにすること、苦手だった縄跳びや鉄棒ができるようになること、忘れ物をせず、きちんと持ち物をそろえて授業に臨むことなど、身近で小さなことでも良いので自分の目標や課題をしっかりともち、夢に向かって努力を続けてほしいと思います。

とはいっても、中々、努力が目に見える成果として表れるとは限りません。時には嫌になって止めてしまおうと思うこともあるでしょう。そんな時には子ども達に、課題はそう簡単には実現しないことが当たり前だということを納得させることも大切なことです。焦らず、あきらめず、こつこつと努力を重ねていくことの大切さを小学生の時に身に付けてほしいと思います。その応援団として学校や家が後押しを続ける存在となっていきたいと願っています。

残された三月末までの3か月間。正確には6年生は49日、1～5年生は53日間という短い授業日数ではありますが、学校は大きな節目を迎える時でもあります。前期の夏休みまでを、畑を耕し、種をまき、芽を出させる時と仮定すれば、夏休みから冬休みまでの間は、芽から枝や葉が成長し、花を咲かせる活動期であります。とすると残された3か月間は、いよいよ大切に育ててきた芽が実を結ぶ、まとめの時といえるでしょう。これまで伸びてきた力をもとに学年の締めくくりと、進級の準備の時といってよいでしょう、特に6年生は、小学校生活の集大成としての時期であり、中学校への旅立ちの準備の時です。一日一日を大切に過ごすことが、しっかりまとめるための基本、234名の子どもたちが、健康で楽しい学校生活を過ごせるように、心を新たに、取り組んでまいります。